



<長崎派遣事業の目的>

本事業は、非核平和都市であることを宣言するいわき市の子どもたちが、核兵器の廃絶と平和を希求する気持ちを高めるとともに、ふるさとの復興・創生を担う人材となる意欲と実践力を身に付けることを目的としています。令和元年度は、30名の中学生を長崎市に派遣しました。青少年ピースフォーラムへの参加をはじめとし、恵の丘長崎原爆ホームの訪問や長崎市内の中学生との交流活動を行いました。

事前学習会



7月に、長崎の被ばくについて理解を深めるため、長崎から被ばく体験伝承者の平田周氏をお招きし、ご祖父の被ばく体験をご講話いただきました。さらに毎週末、派遣生全員で青少年ピースフォーラムや交流活動への参加に向けた事前学習会を行いました。いわき市・長崎市が考える平和とは何か、未来への課題とは何かについて徹底的に協議し、プレゼンテーションの資料作成を発表直前まで行いました。



青少年ピースフォーラムへの参加



参加生徒全員が熱心に話に耳を傾け、積極的に質問していました。「一瞬のうちに何万人もの命を奪い、今でも人々の心に深い爪痕を残す核は、世界中にたくさん存在している。被爆された方は私たちに力強く、1つでも核があってはならないとおっしゃった。1つでも核が存在している世界は、被ばく者が考える平和とはほど遠い。人類が世界が1つとなって戦争について自分事に捉えることが、平和の一步であると考え。」(生徒感想より)



生徒会長サミット実践報告会



12月21日(土)いわき市文化センター大ホールにて「いわき生徒会長サミット実践報告会」が市民に向けて行われました。毎年、年間を通じて行っている事業について、体験や活動を通して自分たちが学んだことをグループに分かれて報告しています。長崎市訪問の成果発表については毎年来場者から高い評価を得ています。今年度の長崎市訪問について、子どもたちは次のように振り返っています。「長崎に行く前は、平和について1つの考えを導き出そうとしていたが、長崎で多くの人と交流する中で、平和にはさまざまな形があることを学んだ。平和には答えがない。だからこそ、追い求めることが平和につながる。それぞれの平和を実現していくためには、周りの人と考えを交流し、平和の輪を広げることが重要だと思った。これからは日々のニュースなどにも目を向け、多くの人と対話していきたい。」

